

第2部 自然の保護と利用

第1章 自然環境の現状と対策

第1節 自然環境の現状

1 植 物

植物は、自然環境に最も支配され易い生物であり 気候や地形、地質の制約を受けることが多い。

本県の気候は、寒冷・多雨 豪雪を伴う北陸型とは異り、むしろ年平均気温14℃内外の温暖な地といえるが、地勢から気候区を分ければ、平地部の山陰型気候区と山間高冷地の中国山地型気候区に区分される。従って、生物も寒暖両系の生物が混交して生息している。

植物の分布を自然植生からみれば、低地には温帯性植物であるツバキ・ソメイ・カシ・タフノキなどの常緑広葉樹が広がるが、標高が高くなるにつれ、コナフ・アヘマキ帯、フナ帯、低木草本帯へと移行する。なかでも、大山の中腹に西日本最大の規模を有するフナの原生林や山頂部のキャホク純林は、本県における代表的な植物の分布域を形成している。また、中山町の海岸には、自生の南限といわれる北方系のハマナスが生育する反面、大山北麓の海岸部には、南方系のハマヒサカキが生育するなど、寒暖両系の植物が分布している。その他鳥取砂丘の砂丘植生や、浦富海岸のクロ松林は非常に美しい景観を呈している。

一方、平野部の神社の境内や城跡には自然性豊かな森林が残存し、県民に親しまれている。

2 動 物

本県の動物についてみると、鳥類は本邦に生息する野鳥の約半数に当る200種が生息している。大型動物は少く、僅かにツキノワグマ、イノシシが知られているにすぎず、他は一ホンサルなどの小型哺乳動物が多い。これら諸動物の生息分布域は、生活環境や食餌の関係などから、自然の生態系がよく保全されている地域に分布し、県東部では八頭郡南城、中部では三徳山、打吹山、西部では大山、蒜山を中心とする地域が主たる生息域といえる。特に、大山には、本邦特産の一属一種の珍獣として知られているヤマネや200種に及ぶ野鳥並びに1,000種を超す昆虫類などが生息し、西日本における小型動物の楽園となっている。しかし、県下の動物のなかで、学術的に最も貴重なものは、中国山地の溪流地西伯郡東長田地区に生息し、「生きている化石」といわれている有尾両生類の「オオサンシ ウウオ」である。

3 地形、地質

本県の地形、地質は、構成する地質や火山活動などにより 県南城と県北域では著しく相違し

ている。

県南域は、三郡変成岩類や花崗岩類などの古い地層からなるため地形は急峻で、そこには侵蝕により生じた遷急点が随所にみられ、滝や瀬などの自然美豊かな景勝地が形成されている。反面、北域は、比較的新しい地質に属する新第三系やこれを覆う鮮新世火山岩類が広く分布し、地形は一般になだらかである。さらに、本県には大山をはじめとする新しい火山活動の所産である火山地形が各地域に分布している。なかでも、県東部の扇ノ山、氷ノ山及び県西部の大山火山群などは、秀麗な山容と雄大なスロープとが相まって、優れた火山地形を形成している。

一方、日本海に面する145kmに及ぶ海岸域には、日本海の荒波と河川の流砂により形成された鳥取砂丘や弓浜半島のごとき日本最大の砂丘、砂川が発達し、後背地の松林と相まって、白砂、青松の美しい砂浜海岸が各所に見受けられる。

また、県東部の岩石海岸には、洞門、洞窟、波食棚等のめずらしい海岸地形が分布し、これらは透明な海と緑の山とよく調和し、山陰の松島といわれる良好な自然景観が形成されている。

4 景 観

本県の地形的景観の特色は、中国山地の分水界が北に偏り、更にその北側に大山火山帯が横たわって日本海にせまっているので、きわめて縦深が浅く、山並の重層する山国的な景観を呈する点にある。しかも、山陰の多雨と急傾斜の短流河川により、山地には深い侵食谷が発達し、河川上流には峡谷のほか、滝や溪谷の発達が顕著である。

大山火山帯では、主峰大山のトロイメ式複式火山のほかに、鷲峰山、三徳山、蒜山、氷ノ山など鐘状火山の面影をとどめるもののほか、船上山、鉢伏山、霊石山、扇ノ山など熔岩台地状を呈するものもあり、多様な山地景観を示している。

海岸の景観は、肢節密度の高い東部ノヤス式岩石海岸や中部岩石海岸、これらをつなぐ鳥取、北条砂丘帯と弓ヶ浜砂嘴など、いわゆる日本海岸地形に特色がある。

生物的景観についてみると、水平的には沿海部のクロマツ林帯からアカマツ林、シイ、タフなどの常緑広葉樹林帯へ、更に山間奥地のスギ、ヒノキ人工林への移行、垂直的には低位落葉広葉樹林帯からフナ帯を経て、ダイセンキ フホク等を含む低木草本帯への移行など自然性豊かな美しい景観が形成されている。

表1. 保全すべき植物

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
覚 寺 神 社	鳥 取 市	シイ林	C級	
伏 野 神 社	〃	〃	〃	
御熊神社とその 周辺	〃	〃	B級	
細 見 神 社	〃	〃	C級	
香 取	〃	シイーカン林	A級	指定済
松 上	〃	シイーサカキ林	〃	〃
管 野	国 府 町	オオミズコケなどの湿原植物	〃	〃
甘 露 神 社	岩 美 町	シイ林	C級	
太 田 神 社	〃	〃	〃	
院内部落周辺	〃	常緑広葉樹林	〃	
唐 川	〃	カキツバタなどの湿原植物	A級	指定済
坂 谷 崎 神 社	福 部 村	常緑広葉樹林	C級	
南 田 神 社	〃	シイーカン林	B級	
鹿 野 城 跡	鹿 野 町	タフーシイ林	C級	
赤 蔵 神 社	船 岡 町	シイーカシーサカキ林	B級	
三 谷 神 社	河 原 町	サカキ林	C級	
北村権限の森	〃	ツバキータフ林	〃	
陣 鉢 山	若 桜 町	ブナ林	B級	
糸 白 見	〃	ヒメコマツ・シヤクナゲの自生地	C級	
弁 天 谷	〃	〃	〃	
頭 巾 山	用 瀬 町	針・広葉樹混交林	〃	
洗 足 山	〃	ヒノキ・ヒメコマツ林	A級	
犬 山 神 社	〃	カシーシイ林	B級	
三 原 高 原	佐 治 村	ススキ・アカモノを中心とした風衝草原	〃	
三国山・高鉢山 ・高山	佐 治 村 河 原 町	フナーミズナフ林	A級	
鳴 滝 山	智 頭 町	ブナ林	〃	
虫 井 神 社	〃	カシーサカキーフナ林	B級	
笏 賀	三 朝 町	ヒノキーツクンシヤクナゲ林	A級	指定済
田 代 部 落	〃	ヒゲノカリヤス・アカモノが密生する風衝草原	B級	
若杉山 津黒山	〃	アカモノを混える風衝ススキ草原	C級	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
曾 谷	関 金 町	オオミスゴケの自生する湿原	B級	
籠 津・御崎海岸	赤 碓 町 中 山 町	ハマヒサカキ群落	A級	
馬 場	西 伯 町	ノイ林	〃	指定済
本宮部落周辺	淀 江 町	ツバキモチノキ林	C級	
別 所	日 野 町	コナフ林	〃	
三 栄	日 南 町	ケヤキ林	〃	
日 谷 神 社		コナフアカマツ林	B級	

表2. 保全すべき動物

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
千代川河口	鳥 取 市	水鳥(ハクチョウ、カモ類)の渡来、生息地	C級	
河内～安蔵	〃	カシカの生息地	〃	
院 内	岩 美 町	モノアオカエルの生息地	〃	
酒 津	気 高 町	ウミネコの渡来地	B級	
殿 ～ 矢 原	鹿 野 町	カワノソユカイの生息地	〃	
鷲 峰 山	〃	鳥類、蝶類(キフチョウ)の生息地	〃	
大 江 ノ 奥	船 岡 町	イノソ、クマタカの生息地	C級	
三 原 高 原	佐 治 村	鳥類、蝶類(ウスイロヒョウモンモトキ)の生息地	B級	
三国山・高鉢山・高山	佐 治 村 河 原 町	鳥類(クマタカ)、蝶類(ミトノジシメ類)の生息地	A級	
天神川河口	北 条 町 羽 合 町	水鳥(カノ、カモ、ソギ、チトリ)の渡来、生息地	B級	
加谷～木地山	二 朝 町	カンカの生息地	C級	
福 山	〃	オオサンショウウオの生息地	A級	
三軒谷・大谷	〃	魚類(イワナ、ヤマメ)鳥類(ヤマセミ)の生息地	C級	
今 西	関 金 町	オオサンショウウオの生息地	A級	
日野川河口	米 子 市	水鳥(ソギ、チトリ、カイツブリ)の生息地	C級	
彦 名	〃	コハクチョウを主とする水鳥の渡来、生息地	A級	
印 賀	日 南 町	フノボウソウの生息地	〃	
板井原川 ～真住川	日 野 町	アマコの生息地	B級	
上 菅	〃	オオサンショウウオの生息地	A級	
毛 無 山	江 府 町	キツツキ類の生息地	B級	
谷 山 川	溝 口 町	オオサンショウウオの生息地	A級	

名 称	所在地	保全すべき自然環境	評価	備考
二 部	溝口町	カ、キロムシ、ハナムクリ類の生息地	B級	

表3. 保全すべき地形・地質
〔地形〕

名 称	所在地	保全すべき自然環境	評価	備考
尻 落 の 滝	鳥取市	若返りの谷、学術参考地	C級	
雁 金 山	〃	花崗岩の孤立丘	〃	
ス ク モ 山	〃	スリハチ型の小孤立丘	〃	
矢 山	〃	孤立山地地形	〃	
長 柄 峽 谷	〃	河川争奪によってできた深い侵食谷	〃	
摩 尼 山	鳥取市 福部村	花崗岩質岩石の孤立山地地形	〃	
毛 無 山	鳥取市 鳥鹿町	安山岩のトーム状地形	〃	
大 石 峽 谷	国府町	上流型の峽谷地形	〃	
今 木 山	〃	沖積平野における残丘	〃	
菅 野	〃	湿原を有する溶岩台地地形	A級	指定済
金 峰 山	岩美町	第三紀層の孤立山地地形	C級	
立 岩 山	〃	急傾斜を有する孤立峰	B級	
酒 津	気高町	垂直な崖・幅広い侵食台・離れ岩などが発達する岩石海岸	〃	
鷲 峰 山	鹿野町	開析の進んだ火山地形	〃	
長 尾 鼻	青谷町	安山岩溶岩の断崖地形	〃	
姫 路 峽 谷	郡家町	上流型の峽谷地形	〃	
猫 山	〃	急傾斜面を有する孤立丘	C級	
霊 石 山	河原町 郡家町	山頂に平坦面を有する火山地形	B級	
遠 見 山	八束町 若桜町	古生層の壮年山地地形	C級	
諸 鹿 峽 谷	若桜町	安山岩溶岩の急崖地形	B級	
城 山	〃	古生層の孤立丘地形	C級	
落 折 高 原	〃	氷ノ山溶岩による溶岩台地	〃	
落 折 峽 谷	〃	急壁と峽谷地形	〃	
吉 川 峽 谷	〃	急壁と峽谷地形	〃	
頭 巾 山	用瀬町	急峻な地形を示す壮年山地地形	〃	
屋 住	〃	花崗岩に刻まれた峽谷地形	〃	
千 代 川 中 流	用瀬町 瀬頭町	大きな谷壁と穿入蛇行を示す峽谷地形	B級	

名 称	所在地	保 全 す へ き 自 然 環 境	評 価	備 考
籠 山	用 瀬 町 智 頭 町	古生層の壮年山地地形	C級	
津 無 高 原	佐 治 村	山麓階的な侵食平坦面地形	B級	
険 所 峠 面	〃	中国準平原の遺物	C級	
佐 治	〃	穿入蛇行地形	B級	
穂 見 山	智 頭 町	古生層からなる壮年山地地形	C級	
新 見 川	〃	壮年期の峡谷地形	C級	
岩 倉 峡 谷	倉 吉 市	柱状節理にそって滝が形成された峡谷地形	〃	
高 城 山	〃	大山の裾野面中にそびえる花崗岩の壮年山地	B級	
小 浜	泊 村	懸谷と海岸段丘地形	C級	
泊	〃	安山岩溶岩に形成された海食崖、波食棚	B級	
笏 賀 峡 谷	三 朝 町	小崖錐を刻む溪流河川のV字谷地形	C級	
太 郎 田 峡 谷	〃	深いV字谷と穿入蛇行地形	B級	
鉛 山 峡 谷	〃	やや浅いV字谷地形	C級	
曹 原 寺 峡 谷	〃	上流型V字谷地形	〃	
加 谷 ～ 木 地 山	〃	〃	〃	
高 清 水 高 原	〃	隆起準平原遺物の可能性をもつ地形	A級	
福 山	〃	前輪廻の谷と峡谷地形	B級	
田 代 ・ 下 畑	〃	花崗岩の峡谷地形	〃	
若 杉 山	〃	準平原	C級	
北 条 砂 丘	北 条 町 大 桑 町	浜堤列の発達した砂丘	B級	
籠 津 ・ 御 崎 海 岸	赤 碓 町 中 山 町	海食によって形成された急崖地形と漂礫浜	B級	
粟 島	米 子 市	弓ヶ浜砂川に突出する玄武岩の孤立丘	C級	
弓 ヶ 浜	米 子 市 境 港 市	日野川によって形成された長大な砂川	B級	
法 勝 寺 川	西 伯 町	上流型溪谷地形	C級	
金 華 山	〃	絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立丘	B級	指定済
越 敷 野	会 見 町	溶岩台地	C級	
要 害 山	会 見 町 西 伯 町	壮年山地地形	〃	
壺 瓶 山	淀 江 町	山頂部に平担面をもつ玄武岩質の山地	〃	
赤 松 原	大 山 町	開析の進んでいない火砕流面	〃	
孝 霊 山	大 山 町 淀 江 町	大山の寄生火山の中で最大のトロイア状の火山地形	B級	
大 雀	名 和 町	漂礫浜	C級	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評 価	備 考
大 倉 山	日 南 町	凹形斜面をもつ孤立山地	C級	
鬼 林 山	〃	北斜面に広大な緩斜面を有する壮年山地		
猿 飛 峽 谷	江 府 町	峽谷地形		
宝 仏 山	江 府 町 日 野 町	壮年山地の地形からなる孤立峰		
鬼 住 山	溝 口 町	花崗岩からなる壮年山地		

〔地 質〕

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評 価	備 考
円 護 寺	鳥 取 市	安山岩の柱状節理の発達地、学術参考地	B級	
円 通 寺	〃	円通寺礫岩の好露頭地	〃	
白 兔	〃	白兔礫岩層の模式地、学術参考地	〃	
普 含 寺	国 府 町	中新世の標準化石産地及び学術上の模式地	〃	
拾 石	〃	安山岩の柱状節理の発達地	〃	
岡 益	〃	植物化石の産地	〃	
宮ノ下 奥谷	〃	海産魚類化石の産地	A級	
菅 野	〃	湿原地中に形成された泥炭層	〃	指定済
亀 尻 高 原	青 谷 町	亀尻玄武岩の模式地	B級	
富 枝	八 東 町	安山岩の柱状節理の発達地	〃	
佐 治	佐 治 村	緑色千枚岩を原岩とした佐治石の分布地	〃	
高 城 山	倉 吉 市	大山山麓の基盤岩露出地	〃	
高 清 水 高 原	三 朝 町	ウワン鉱床の標式地及び植物化石の産地	A級	
上 大 立	〃	古期大山火山碎屑岩の模式地	B級	
北 条 砂 丘	北 条 町 大 栄 町	砂丘成因にかかると鍵層の分布地、学術参考地	〃	
高 姫	会 見 町	中位段丘を構成する礫層の模式地	〃	
一 ノ 谷	大 山 町	溝口凝灰岩の模式地		
名 和 御 来 屋	名 和 町	御来屋礫層の模式地		
名 和		火山碎屑流（名和泥流）の分布地		
多 里	日 南 町	多里層の模式地、荷重痕の露出地及び化石の産地	〃	
多 里	〃	粘板岩を原岩とする松皮石の産地	〃	
宝 仏 山	江 府 町 日 野 町	角礫岩層の好露出地	〃	

表4. 保全すべき景観

〔海岸地域〕

地 区 名	概 要	備 考
山陰海岸国立公園周 辺地区	<p>金峰山及び蒲生付近の展望。</p> <p>岩井温泉西南丘陵、御湯神社、恩志付近、兵主神社、立岩山、二上城跡一帯の広葉樹林。</p> <p>摩尼山頂上部の植相。</p>	
賀露～橋津海岸地区	<p>賀露、湖山、大寺屋、白兔、末恒のクマツ林。</p> <p>9号線南側斜面のタフ、シイ林。</p> <p>魚見台、長尾鼻、石脇東部岬の展望。</p> <p>湖山池の小島嶼群、石釜。</p> <p>矢山、吉岡、国立療養所、箕上山、三谷、布勢、天神山城跡、山王権現社周辺等の林、馬ノ山、大平山、御冠山、鉢伏山の展望。</p> <p>羽衣石城跡の広葉樹林。</p> <p>白兔伝承地、酒津、夏泊、泊等の漁村。</p> <p>吉岡、浜村、東郷、浅津の各温泉。</p> <p>馬ノ山、古墳群、倭文神社の人文景観。</p>	
北条砂丘地区	<p>松上、東園、西園などの集落南縁のタフ、エノキ、ヤナキなどの対南風防風林。</p> <p>北尾古代住居跡、島遺跡及び由良砲台跡の人文景観。</p>	
大山北麓海岸地区 (由良～淀江)	<p>中山町海岸のハマナスやアンサイの群落、沿道のクマツ林。</p> <p>中山町松河原及び壺瓶山北麓の常緑広葉樹林。</p> <p>名和氏史跡、赤碕漁港、八橋城跡、赤碕畜産試験場と東伯町一帯の高麗ソバの集団栽培景観。</p>	
弓ヶ浜海岸地区	<p>外浜浜提帯に弧を描くクロマツ防風林帯。</p> <p>内浜砂丘帯の古いクロマツ林列、集落列沿いのクマツ屋敷林列、粟島神社の常緑広葉樹林。</p>	

〔主要市街地周辺〕

地 区 名	概 要	備 考
鳥 取	<p>久松山の山容、植相。</p> <p>摩尼山塊、稲葉山山塊（池田家墓地、宇倍神社、美敷水源池を含む）</p> <p>霊石山塊、大路山、面影山、今木山及び千代川西岸平野中の孤立丘群。</p> <p>庁、国分寺、法華寺などの集落景観と屋敷林。</p>	
倉 吉	<p>打吹山、巖城や打吹山南麓の八幡神社の広葉樹林。</p> <p>国庁裏神社社殿。</p> <p>伯耆国分寺跡—四天王寺—不入岡の展望。</p> <p>天神川と三徳川との合流点付近、及び大宮神社等の社殿。</p>	
米 子	<p>城山の地形、植生。</p> <p>市街地内の社寺林、兼久土手の桜並木、王子製紙社宅周辺のポプフ並木、皆生温泉地内外のクロマツ林。</p> <p>福成—天万—安曇周辺の丘陵又は孤立丘群に生育する広葉樹林</p>	

〔主要河川流域〕

地 区 名	概 要	備 考
智 頭 川 流 域	<p>（国英～社）</p> <p>釜ノロサクフ並木、樹園地、犬山神社社殿。</p> <p>高福攻撃面、鷹狩攻撃面、河床露岩地（用瀬） 頭巾山露岩峰、洗足山露岩峰、篠ヶ穴穿入蛇行地形。</p> <p>柵形城跡、景石城跡、用瀬宿場町町並。</p> <p>（智頭～芦津）</p> <p>スキーヒノキの美林。</p> <p>三郡変成岩露岩の河谷床。</p> <p>置千木止り屋根型集落、高段定置稲架、智頭町の養鯉と旧</p>	

地 区 名	概 要	備 考
智 頭 川 流 域	<p>宿場町及び旧木地師集落。</p> <p>(佐 治)</p> <p>三王滝トチの巨木群落。</p> <p>青黒色佐治石河床、猿渡溪谷、尾際タム。</p> <p>因川和紙の産地、津野並びに津無の高位集落と高原面上からの景観。</p> <p>(曳田川)</p> <p>曳田川上流の三滝溪。</p> <p>(安蔵川)</p> <p>下流の花崗岩地域。</p>	
八 東 川 袋 川 流 域	<p>(丹比～若桜)</p> <p>丹比攻撃面、玄武岩柱状節理露頭、千石岩、戸倉峠付近の溪谷と急崖。</p> <p>鬼ヶ城跡と樹叢、若桜宿場町の景観、重要文化財建築岩屋堂、高段定置稲架、隠遁集落(落折等)。</p> <p>(扇ノ山、氷ノ山西麓)</p> <p>姫路溪谷、妻鹿野溪谷、茗荷谷ダム、春米溪流。</p> <p>石屋根の集落、隠遁集落、旧木地師集落。</p>	
勝 部 川 流 域	<p>八葉寺の植相、河谷の斜面。</p> <p>マス養殖、因川和紙の産地。</p>	
竹 田 川 流 域	<p>三朝温泉から坂本-三徳山-俵原-鹿野道沿道の溪谷美と史跡名勝地、三徳山。</p> <p>飯盛山の自然植相、俵原牧場、隠遁集落俵原。</p> <p>中津ダム、名勝小鹿溪、東西小鹿段丘集落。</p> <p>鉛山-小河内、田内-大谷付近の溪谷。</p>	
日 野 川 流 域	<p>鏡ヶ成-下蚊屋溪谷と猿渡溪谷、板井原溪谷。</p> <p>根雨から生山地区の河床景観、石霞溪の岩石美、溪谷地形。</p>	

地 区 名	概 要	備 考
日 野 川 流 域	城跡、根雨-生山の宿場町、箱棟屋根景観。 板井原付近、印賀川、湯河、小原川、大木屋の各溪谷。	

第2節 保全すべき地域

県内における自然環境を保全すべき地域は次の表のとおりである。

なお、評価については、各部門ごとに特殊性があり一律に規定することはできないが、学術的な観点から全国レベルのもの-A級、中国地方レベルのもの-B級、県レベルのもの-C級として表示した。

表5. 自然環境を保全すべき地域(1)

評価区分	植物部門	動物部門	地形部門	地質部門	計
A 級	10 か所	7 か所	2 か所	3 か所	21 か所
B 級	10	8	21	19	59
C 級	17	7	40	—	64
合 計	37	22	63	22	(128) 144

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表6 自然環境を保全すべき地域(2)

部 門	東 部 地 区	中 部 地 区	西 部 地 区	計
植 物	27 か所	5 か所	5 か所	37 か所
動 物	9	5	8	22
地 形	33	15	15	63
地 質	11	4	7	22
合 計	(71) 80	(23) 29	(34) 35	(128) 144
景 観				13

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

第3節 保全対策

1 県自然環境保全地域の指定

県内における自然環境を保全すべき地域のうち、すぐれた自然の風景地については、自然公園として指定がなされているが、①高山植物、優れた天然林等の区域、②特異な地形、地質を有している区域、③動植物を含む自然環境が優れた状態を維持している海岸、湖沼、湿原、河川等については鳥取県自然環境保全条例により、順次、県自然環境保全地域の指定を行うこととしている。

指定については、第4次鳥取県総合開発計画に基づき、昭和60年度末までに20か所程度、さらに昭和65年度末までに20か所程度の地域指定を目標としている。

現在、指定されている県自然環境保全地域は、次の表のとおりである。

表7. 県自然環境保全地域

番号	地域名	所在地	面積の内訳(ha)			指 定 理 由	指定年月日
			普通 地区	特別 地区	計		
1	菅野	国府町	2 00	18 50	20.50	ミスコケ等の湿原植物、溶岩台地水河期の花粉等を有する泥炭層	52. 4 8
2	香取	鳥取市	4 00	3 90	7 90	シノキ林を主としたヤブツハキクス域の常緑広葉樹林	52. 4 8
3	松上	〃	—	5 20	5 20	シノキ林を主としたヤブツハキクス域の常緑広葉樹林	52. 4 8
4	笏賀	三朝町	—	3 20	3 20	シノキ、ウフジロカン等の常緑広葉樹林とヒノキ、ツクシジャクナゲ群落	52 7.29
5	馬場	西伯町	—	3 70	3 70	シノキ林を主としたヤブツハキクス域の常緑広葉樹林	52 7 29
6	唐川	岩美町	—	19 80	19 80	カキツバタ等の湿原植物、ハツチョウトンボ溶炭台地、花粉植物化石を有する泥炭層	53 5 12
7	金華山	西伯町	—	6 10	6 10	絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立状の山体	55.12 23
合計	(7地域)		6 00	60.40	66 40		

2 自然保護思想の普及

すぐれた自然を保護することは私産国民の課題であるが、そのためには法律により規制をかけるだけでなく、自然の利用者ひとりひとりが自然に学び、自然の大切さを理解することが必要である。そのため県では、西伯郡大山町大山に県立大山自然科学館を、岩美郡岩美町牧谷に県立山陰海岸自然科学館を建設し自然保護思想の啓蒙を図っている。

また、県立大山自然科学館を基地として自然解説制度を設け5月から11月の期間に、展示物の解説のほか 大山地内の地形、地質、動植物及び歴史等について現地解説を行ない、自然に関する知識の普及と自然保護思想の高揚を図っている。

表8 昭和55年度自然解説実施状況

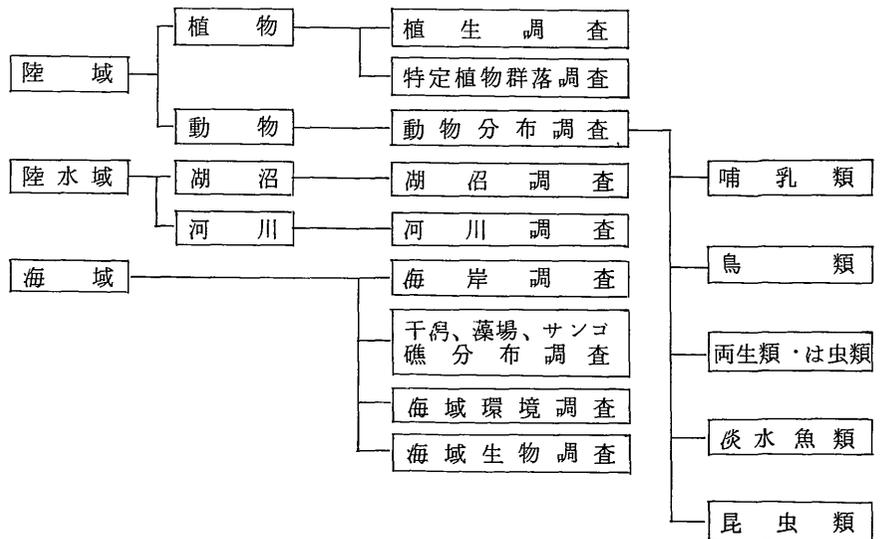
季節	実施日数	参加人員
春（5～6月）	5日	49名
夏（7～8月）	31日	1,392名
秋（9～11月）	5日	104名
計	41日	1,545名

第4節 第2回自然環境保全基礎調査結果

自然環境保全基礎調査は、自然環境保全法第5条に基づき、おおむね5年ごとに実施される調査であり、第1回は昭和48年度に実施され、第2回は昭和53年度、54年度の両年度にわたって実施された。

この調査の概要は表9のとおりである。

表9. 第2回自然環境保全基礎調査



1 植生調査の概要

本調査地域は、毎抜0～1710mの範囲にわたり、亜寒帯、亜高山帯自然植生の一型とみられるキャフホク群落を含み、フナクス域自然植生、同代償植生、ヤブツバキクス域自然植生、同代償植生、河辺、砂丘植生がみられる等、中国地方では最も自然性の豊かな地域とみなされる。またスキ、ヒノキ植生も豊富である。

(1) 亜寒帯、亜高山帯自然植生

キャフホク群落

キャフホク群集は大山のフナ帯の上部に成立する低木林帯の中にあつて、毎抜1350m以上に見られる。特に山頂平坦部には日本最大の規模をもつ群集が広がりみごとな景観を呈している。

(2) フナクス域自然植生

ア、クロモシ——フナ群集

この群集の生育適地はスギ等の植林適地でもあり、大部分植林化されていて自然としての本林分はいちじるしく減少している。まとまりのある面積をもつて残存している代表的な山地を上げると、大山山城、氷の山、陳鉢山芦津、鳴庵山、高鉢山周辺、三徳山、三国山等である。

イ ヒメコマツ群落

県内のヒメコマツ群落の分布は稀少であり、いずれも規模が小さい。東大山城の勝田ヶ山から北へ伸びる甲川沿いの支尾根中腹部に分布する林分を除くと、三徳山や洗足山にも分布するがいずれも林分とは云いがたく、ヒメコマツが点的に存在しているにすぎない。

ウ、シュウモンシシダ——サワクルミ群集

フナクス域の河川や尺ぞいの段丘面あるいは小規模ながら扇状地を形成する尺と河川の合流点に出現する。小規模な林分をも含めると県内の各山地に分布する。ややまとまりのある林分となると大山の甲川および地獄谷を挙げるのみである。

エ、自然低木林

前述したキャフホク群集もちろん自然低木林の一つであるが、ここではキャフホク群集を除く、主として夏緑低木林を指す。大山の毎抜1300m以上の山頂部周辺を中心とし、氷の山、那岐山、道後山など全県下の中国脊梁山地沿いに成立している。

オ、自然草原

大山、道後山、那岐山などの山頂に生ずる草原を指し、積雪、風衝立地の安定層などの環境条件に対応して種々の群集が成立する。

山頂草原の中には真の意味で必ずしも自然草原と云い切れないものもあるが、大山の山頂草原は明らかに自然草原であつて規模も大きい。

(3) フナクス域代償植生

ア、フナーミズナフ群落

県内各地に分布し、代表的な分布地域をあげると、大山中腹地域の夏山登山道2～3合目付近、鍵掛峠付近に見られる。また、扇ノ山はほぼ全域にわたってこの群落の林分が分布している。

イ、カシワ——スナフ群落

落葉広葉樹林で日野郡に多い

ウ、クリ——スナフ群落

ヤブツバキクスの上部付近における夏緑広葉樹二次林である。県内各地に分布するが特に日野郡に顕著で船通山や道後山の中腹に多い。

エ、アカンテ——イヌンデ群落

落葉広葉高木林。照葉樹林帯上部からフナ帯にかけその中間帯に分布する。この林域は主要な造林帯でもあり自然林とみなされるのは稀である。

オ、ササ草原

ササ草原の多くはススキ草原に隣接ないし混生し、主に海拔1000m内外の県境沿いの山頂部か尾根にそって分布が見られる。

カ、ススキ草原

ススキ草原即ち採草地の多くは、600m以上800mまでによく見られたが、今では佐治村三原高原、岩美郡河合谷高原、船上山茶園原、大山上スキー場など小面積を残すのみである

キ、伐跡群落

伐採後はたいてい直ちに植林が行なわれるため、植林に位置づけられる場合が多くヤブツバキクス域ではその分布は少ない。

(4) ヤブツバキクス域自然植生

ア、ヒメアオキ——ウフシロカン群集

現在するカン林には、鳥取市久松山など県内東部の丘陵急斜面～崖地にみるアフカンはむしろ稀であって、普通にはシフカンとウフシロカンが多い。

イ スダシイ群落

常緑広葉高木林で、県内各地に100地点以上の分布をみるが、1haを越える林分はごく少数である。代表的な地区として久松山、意上奴神社、御熊神社、犬山神社、打吹山、倭文神社、霞々岐神社などが挙げられる

ウ、アカマツ群落

自然林としてのアカマツ群落は県内ではごく少なく、分布地を1.2あげると洗足山および三角山の500m～700mにかけ尾根の露岩地に線状に成立する小林分がある。

エ、クロマツ群落

県下には毎岸沿いの狭い範囲にわたって帯状にみられる。東部の毎岸においては、毎に面した断崖の上部に安定したクマツ林がみられ、毎岸特有の景観をあらわしている。代表的な分布地は浦富毎岸である。

(5) ヤブツバキクワス域代償植生

ア、コナフ群落

人為的な影響を強くうけてできた二次林であり、古く薪炭林として利用されてきたものが多く、アカマツ落葉樹林より上部に位置することが多い。

分布的には毎岸から内陸部のブナーミズナフ冷温帯葉樹帯に至る移行帯にあり 毎岸 500 mまでのカンクワ帯ないしそれ以下に多く見られる。

イ、シイ・カン萌芽林

県下の沿岸部にシイ林がみられ、この内陸側にカン類の林が成立するが、人為がすこぶる激しく加わる地域にあるため、社叢などを除けば極相林的な状態を示すものは少ない。二次林的なカン林は、河谷に接する急斜地には、かなり県下全域にみられるが、小面積である。

ウ、アカマツ群落

常緑広葉樹林が薪炭林として伐採されたあと生じた二次林であり 鳥取県の大部分を覆う広い面積に発達したものである。

エ クロマツ群落

毎岸等に成立する自然植生「クロマツ群落」に隣接して形成される。

浦富毎岸等を中心にして分布する。

(6) 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生

ア、ヨシクワス

県下では湖山池、東郷池の二大池の池辺にかなり広い範囲に繁茂している。

イ、砂丘植生

砂丘植生の大規模なものは鳥取砂丘を除けば、ほとんど見られない。

鳥取砂丘はいくつかの、かつての湧水地とそれから流出する小流に沿った谷状地形を持っており、南～北2kmの巾を持った複雑な地形の上に数種類の砂地植生群落型が成立していて、全国的視野でも稀な相観を呈している。

(7) 植林地・耕作地植生

ア、アカマツ植林

常葉針葉植林

全県下低山域に植林されている。

イ クマツ植林

県下の東部から西部にかけて、海岸沿いの砂浜に広い範囲にわたって植林されている。

ウ、スギ、ヒノキ植林

県内では、八頭郡智頭町が最大で、全国屈指である。

エ、カフマツ植林

カフマツは県内に自生なく、すべて植林である。

オ、モウソウチク林

海拔500 m以下の民家が点在する県内全域に見られる。

カ、落葉果樹園

落葉果樹園としては、ナシ、カキ、フドウ、モモ、クリ園等をあげることができる。

2 特定植物群落の概要

県下において特定植物群落の選定調査を行った結果、54地点 75 群落を抽出した。

(1) 海岸

砂丘植生は、鳥取砂丘植生に代表されるが、海浜植生から飛砂や砂丘の移動に影響を受けて変化する植生、そして立地の安定化によって遷移する植生まで、微妙な環境変化に対応する砂丘植生が同一地区で観察される日本的に貴重なものである。

クロマツ自然林は、暖温帯の海岸線の景観を特徴づけるものであるが、岩美郡の浦富海岸には沢山の小島を含め海岸線露岩地にクロマツ自然林が生じ、鳥取県のクロマツ自然林を代表するものである。

中山町御崎の海食崖に育生するハマヒサカキ群落は点在する小群落で十分なまとまりを示すものではないが、北限の群落であるので保全されなければならない。

(2) 照葉樹林帯

県内の照葉樹林は、スダジイ林、タフノキ林、シフカン林、ウフシロカン林であるが、いずれも神社社叢あるいは城跡に残存する小面積の林分で1 haを越えるものはごく少ない。一般的にスダジイ、タフノキ林は低海拔地、ウフシロガシ、シフカン林は内陸部、またスタジイとウフシロカン林は乾燥性、タフノキ、シフカン林は湿潤性の傾向がみられる。

シフカン林は日野郡根雨の金毘羅神社社叢を中心として根雨地方に集中している。

(3) 移行帯

県内のおよそ300～400mの海拔高で照葉樹林帯は終ると考えられる。場合によっては照葉樹林から直ちにブナ林帯へ移行することも考えられる。東伯郡三朝町の三徳山や八頭郡智頭町の虫井神社ではウフシロカン林からブナ林への直接の移行がみられる。一方、県西端部の日野郡特に印賀、阿毘縁地方には400～600mの海拔高に所在する社叢にナフクリ老令林やモ林があり、ブナ林帯要素の混入は多くない。

(4) 冷温帯落葉広葉樹林帯

県内のフナ林は多積雪型日本侮型のフナ林に位置づけられるが、その重要な構成要素であるヒメモチやチシマササが県西部では脱落しており、日本侮型フナ林から太平洋型フナ林への移行を示す地域である。またフナ林の中にスキが混生する特徴がみとめられ、県東部山地の立地粗悪地に顕著である。

(5) 山 頂 帯

大山をはじめとして甲ヶ山を中心とする東大山、鳥ヶ山、那岐山、須賀ノ山(氷ノ山)などの山頂部はフナ林の上部に低木林および草場が出現する。特に大山のキャップホク林、鳥ヶ山のミヤマハンノキ林、那岐山のサツタウダン林は特に貴重である。又、特に大山山頂部周辺の草場は、各種草地群落ともまとまりのある規模を有し、貴重である。

(6) 湿 原

県内では山地湿原は極めて少なく稀少価値を有する。国府町の菅野湿原など二、三特定群落として取り扱ってもよいと考えられる湿原が存在する。

3 動物分布調査の概要

(1) 県内の哺乳類の概要

ア、一ホンザル

一ホンザルの県内の生息地は、概してク、コナフ林の分布する山ろく地帯である。

生息地として知られる若桜町、八東町のサルも数年前のおもかげはすでない。

県内の分布は東部、中部、西部にまたがるけれども、中部では単独のサルのみで、西部でもほとんどが単独のものである。

イ、シカ

シカは県の東部の山岳から散在的に生息情報があるほか、中部からも一つの生息情報がある。このうちで、戸倉峠に近い県東南部の山岳地帯では兵庫県側からはいりこんでくることがよく知られている。

県の西部からはシカの生息情報はない。なお、西部の日野町貝原地区と日南町粟谷地区では、それぞれ昭和20年代、40年代に絶滅したということである。

ウ、ツキノワグマ

ツキノワグマの県内の生息地域は、東南部の山岳地帯である。そして繁殖地域と見なされるのは、この地帯の中でも兵庫県との、あるいは岡山県との県境に近い深山である。

エ、イノシシ

イノシシは、市街地を除けば、県内の大部分の地域から生息するという情報が得られている。

オ、キツネ

キツネは、ほとんど全県的に生息するようである。

カ、タヌキ

タヌキも県内のほとんどの地域で生息情報がある。

キ、アナグマ

アナグマは県内の大部分の地域から生息情報がある。

ク、その他（ヤマネ）

ヤマネは県内では1960年以降に七つの発見例があるが、これらは大山または県東南部の兵庫境に近い山岳地帯からの記録である。

(2) 県内の両生類、は虫類の概要

ア、モノアオカエル

県内一様に分布生息している。河川形態もよく保全されていること、コナフ、ズナフ、カエブ、フナ等の植生が多いことなど好適な生活環境のためである。海拔高度800m付近を上限として、生息する。

イ、オオサンショウウオ

県下三大水系（千代川、天神川、日野川）で見ると、東から西へと移動するにつれ、生息場所、生息個体数の増加が見られる。

中国山地の山麓帯に位置する山地溪流中に生息し、その支持環境の地学的性状は花崗岩である。集水域には、アカマツ、コナフ等の二次林の植生が多いことと、溪畔までその植生が続いていることが最適条件である。生息分布上限の海拔高度は450m付近であり、大体300m以下に生息している。

ウ、カスミサンショウウオ

海拔高度300m付近を境として、海岸近くまで、県内一様に分布している。

エ、ヒダサンショウウオ

海拔高度300m付近より高い地域（カスミサンショウウオの生活圏より上）県境の山頂近くまで分布している。

オ、ブチサンショウウオ

ヒダサンショウウオと同じく海拔高度300m付近より高い範囲に生息しているが、場所は点在しているのが特長であり西に行くほど多い。

カ、ハコネサンショウウオ

中国山塊ぞいの1000m級の高山の溪谷に生息し、溪流中に多数の幼生が見られる。大山火山岩類のうち、旧期に属する外輪山溶岩でできた船上山一帯並びに火山砕屑岩でできている裏大山一帯には、数は少ないが溪流中に幼生を見ることができる。

キ、アカウミカメ

近年東伯郡泊村の海岸、境港市の海岸で産卵並びに孵化の事実が認められることから回遊

していると判断してよい。

ク、タイマイ、アオウミカメ

発見が秋に多いことから、日本海を南下する際、寒流や天候の急変等の影響を受けて海岸に接近したものと思われ漂着に属する。

(3) 県内の淡水魚類の概要

一般的にみると、3水系とも魚類相に大差はなく総種類は38～42種であり 日本各地の淡水域に普通に生息する魚種が生息する。

ア、指定魚種について

27種のうち、鳥取県下で対象とされるものは、カマキリ、ゴギ、イトヨにとどまる。イトヨについては、湖山池周辺の小川、鳥取市西南部山麓溪流などで生息が確認され、気高郡気高町宝木周辺の水域でも認められ、ともに降海型である。

天神川、日野川水系については既往の情報をもとに詳査したが検出されず、平野部の開発に伴い絶滅への兆しを認める。

カマキリについては、従来千代川を分布西限とする説が多いが、一部天神川にも生息するとの情報もあり、日野川についても同様である。

調査の結果、岩美町陸上川（くがみがわ）の下流域に生息することを認めた。

これは新知見である。タナゴについては対象淡水魚種は認められず、ヤリタナゴを検出したにとどまる。

イ、魚類相全般について

一般にコイ科淡水魚は広く分布し千代川、天神川、日野川ともに中流域より下流では、オイカワ型河川への転移の傾向が認められる。

また、サケ科の魚種であるイワナ、ヤマメ、アマゴについては、イワナは奥地の源流域あるいは山地流域にのみ僅かに生息し、ヤマメについても同様の傾向が認められる。これ一つには、アマゴの放流とも関連するものと考えられ、アマゴ放流によりヤマメは本来の生息水域より追い出されより上流域へと移動し、これに伴いイワナはさらに上流へという傾向が認められる。

鳥取県下の淡水魚相は、まだかなりよく保存されており 貴重なものと判定する。

(4) 県内の昆虫類の概要

調査対象とした昆虫類は、表10に掲げた10種の「指標昆虫類」及び表11に掲げた調査対象昆虫類選定基準により選定された50種の「特定昆虫類」である。

表10 指標昆虫類

種 コ ー ト	種 名
1	ムカントンボ
2	ムカシヤンマ
3	ハッショウトンボ
4	カ アムシ目
5	タ カ メ
6	ハルゼミ
7	ギフチョウ
8	ヒメギフチョウ
9	オオムフサキ
10	ゲンジホタル

表11 調査対象昆虫類選定基準

記号	理 由
A	日本国内は、そこにしか産しないと思われる種
B	分布域が国内若干の地域に限定されている種
C	普通種であっても、北限、南限など分布限界になるとと思われる産地に分布する種
D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種
E	近年当該地域において絶滅したと考えられる種
F	業者あるいはマアなどの乱獲により、当該地での個体数の著しい減少が心配される種
G	環境指標として適当であると考えられる種

ア、指標昆虫類

(ア) ムカントンボ

当県内においては、県内全域にわたり山間部の河川を中心に比較的多くの生息域が報告され、現在も生息が確認されている。

(イ) ムカシヤンマ

県内の山間の河川域を中心に、いくつか報告があるが 当県では未だ詳しく調べられていない。

(ウ) ハッショウトンボ

山間地の湿地帯にいくつかの生息域が報告されている。

(エ) カ アムシ目

この種に関する県内の調査は、ほとんど行われておらず、2、3の報告があるにすぎない。しかし森林中では多数生息しているものと思われる。

(イ) タカメ

県内の沼地等に割合と広く分布しており 個体数も多い。

(ロ) ハルゼミ

県内に広く分布し、個体数も比較的多い。

(ハ) ギフチョウ

県内の山麓に広く分布しているが、分布域は比較的限られ、極めて局地的である。個体数はいくつかの地域で激減している。これは環境の破壊や、採集マニアによる乱獲、特に食草の採取によるものであろう。

(ニ) オオムフサキ

県内全域の山麓、神社の境内等に、個体数はそれほど多くないものの確認されている。

(ホ) ゲンシホタル

県内山麓の河川の上流域に比較的多く見られる。

イ 特定昆虫類

当県においては、50種の特定昆虫類を指定し、調査を行った。

大山山麓ではウスイロヒョウモンモトキ ヒメヒカゲ・ゴマンジミヤ、ゼフィルス等の種類が減少している。ウスイロヒョウモンモトキは、鏡ヶ成附近以外では少なくなっている。これは、湿生草原が乾草原へ変わったことも影響しているであろう。

海岸線附近においても、海岸近くの松林を生息域にしているゴキブリ目などに減少が目立つ。

山間の溪流沿いでは、これらの地域に生息するカケ ウ目 脈翅目 毛翅目などでは一部の種を除いて、比較的多くの発生が認められている。

4 湖沼調査結果の概要

本県における面積1ha以上の天然湖沼7湖沼中3湖沼について、実施した。透明度調査、改変状況調査等の結果は表12~14のとおりである。

表12 調査結果の概要

湖沼番号	湖沼名	標高 (m)	面積 (km ²)	湖岸線延長 (km)	透明度 (m)	埋立干拓面積 (km ²)	湖岸改変状況				湖岸土地利用				大規模建築物	湖沼型
							自然	半自然	人工	水面	自然	農業	市街	水面		
443	多鯨ヶ池	17	0.18	3.1	4.5	0	27	04	0	0	26	03	02	0	0	貧
							%	%			%	%	%			
444	湖山池	0	6.88	17.5	0.7	0.03	22	58	95	0	44	79	52	0	0	富
							%	%	%		%	%	%			
445	東郷池	0	4.06	12.7	1.25	0.01	20	05	102	0	20	38	69	0	7	富
							%	%	%		%	%	%			
計	3湖沼		11.12	33.3		0.04	69	67	197	0	90	120	123	0	7	富2 貧1
							%	%	%		%	%	%			

表13 鳥取県調査対象外天然湖沼 (面積 0.01 km²以上)

湖沼名	標高 (m)	面積 (km ²)	備考
1. 鶴ノ池	400	0.19	中国電力の貯水池として利用されているが 本来天然湖沼、オンドノ飛来池
2. 原ノ池	0	0.01	冬季には高潮による排水不良のため、計測面積値以上に拡大、旧海跡湖に復する
3. 水尻池	0	0.25	田植～収穫期の動力排水期間外とくに冬季には計測面積値以上に湖面は拡大し、旧海跡湖に復する。
4. 日光池	0	<0.01	同上で1ha以下であるが 天然湖沼として挙げる。

表14 湖沼概要

調査項目 \ 湖沼名	多鯨ヶ池	湖山池	東郷池
水面標高	17.0m	0 m	0 m
面積	0.18km ²	6.88 km ²	4.06 km ²
最大水深	13.8m	7.0 m	4.6 m
平均水深	7.0m	2.8 m	2.1 m
容積	0.0015km ³	0.019 km ³	0.0088 km ³

調査項目		湖沼名		多 鯉 ケ 池		湖 山 池		東 郷 池	
湖 岸 線 延 長				3.1 Km		1 7.5 Km		1 2.7 Km	
水 位 変 動				1.7 m		0.7 m		0 5 m	
水 温	表 面			6.9 (2 7.1) °C		3.3 (3 0.8) °C		2.4 (3 0.4) °C	
	底 層			5.3 (8.8) °C		3.0 (2 8.5) °C		2.5 (2 9.8) °C	
結 永				稀有 (降雪時)		無		無	
流 入 河 川 数				0		6		4	
流 出 河 川 数				0		1		1	
埋 立、干 拓 面 積				0 km ²		0.0 3 km ²		0.0 1 km ²	
P H	1 9 7 8. 年 8 月			6.8		8.8		8.9	
D O	1 9 7 8 . 8			5.7 ppm		6.7 ppm		9.5 ppm	
C O D	1 9 7 8. 8			4.4 ppm		1 3.0 ppm		7.9 ppm	
T O C	1 9 7 8. 8			—ppm		—ppm		—ppm	
S S	1 9 7 8. 8			4.0 ppm		2 5 ppm		9 ppm	
C l -	1 9 7 8. 8			2 2.3 ppm		8 8 6 ppm		7, 6 8 0 ppm	
ケルタール N	1 9 7 8. 8			ppm		ppm		ppm	
NO ₂ -N	1 9 7 8. 8			0.6 1 ppm		1.3 1 ppm		0.9 7 ppm	
NO ₃ -N						ppm		ppm	
T - P				0.0 1 5 ppm		0.2 7 5 ppm		0.2 5 8 ppm	
大 腸 菌				4.9 × 10 MPN / 100 ml		2 MPN / 100 ml		1.3 × 10 ³ MPN / 100 ml	
透 明 度		1929. 7. 29	4.9 m			m	1974. 12. 11	1.4 m	
		1974. 8. 1	4.3 m	1975. 1. 7	3.5 m		1975. 2.	1.5 m	
		1975. 8. 25	4.0 m	1976. 2. 12	2.2 m		1976. 12. 20	1.8 m	
		1976. 9. 1	3.4 m	1977. 1. 27	1.9 m		1977. 1. 13	1.4 m	
		1977. 6. 30	3.1 m	1978. 1. 13	1.8 m		1978. 9. 13	1.9 m	
		1978. 8. 28	3.4 m	1979. 1. 25	2.5 m		1979. 3. 27	1.8 m	

5 河川調査結果の概要

(1) 魚類調査

千代川・ 全捕獲数の過半をフナ類が占める。

天神川・ コクフクハゼの捕獲数が第一調査地点で最大。

日野川・千代川、天神川では捕獲されなかったカマキリが捕獲された。又、シノボリの捕獲数が最大となった調査地点があった。

(2) 河川改変状況調査

河川改変状況調査の結果及び調査対象河川の魚道の状況は表15及び16のとおりである

表15 河川改変状況調査結果

調査対象 河川名	調査区 間数	水際線の改変状況				河原の土地利用状況				河畔の土地利用状況							
		人工化された水際線の割合(延長の10分比)				人工化された河原の割合(面積の10分比)				(右岸)				(左岸)			
		自然地		農 業 地		市 街 地		自然地		農 業 地		市 街 地					
		樹林地	その他	樹林地	その他	樹林地	その他	樹林地	その他	農 業 地	市 街 地						
0~2		3~5		6~10		0~2		3~5		6~10		計		計		計	
千代川	48	15	23	10	40	8	0	48	9	2	17	20	9	3	23	13	
天神川	29	7	1	21	23	2	4	29	4	0	20	5	5	0	21	3	
日野川	62	33	25	4	59	3	0	62	14	1	41	6	20	2	37	3	

調査対象 河川名	調査区 間数	河川工作物(ヶ所数)				取 水 施 設 の 有 無	河川の利用状況							不 快 要 因								
		魚の 可 能 な 魚 道 有 (ヶ所)		魚の 不 可 能 な 魚 道 無 (ヶ所)			風 景 探 勝 (遊 歩 道)	キ ャ ン プ	温 泉	ホ ト リ	川 下 り	常 設 釣 場	漁 業	水 の に よ り	水 面 上 の ア ワ 臭	悪 臭	ゴ ミ ・ 残 材	砂 利 採 取	河 畔 の 道 路 法 面	水 量 の 少 な さ	湯 水 時 の タ ム 湖 岸	
		魚 道 有 (ヶ所)	魚 道 無 (ヶ所)	魚 道 有 (ヶ所)	魚 道 無 (ヶ所)		有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
千代川	48	12	0	24	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0
天神川	29	8	15	0	4	4	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日野川	62	29	3	0	1	22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0

(注) 各欄には、該当する調査区間数が記入されている。

- 1 「人工化された水際線」とは、コンクリート護岸・矢板等の工作物により構成された水際線をいう
- 2 「人工化された河原」とは、公園・クワッド等の施設の土地利用地、未利用造成地・農用地になっている河原をいう

表16 魚道の状況

調査対象 河川名	魚の湧上が不可能な魚道		魚の湧上が 可能な魚道	計		
	構造上の問題(ヶ所)	管理上の問題(ヶ所)				
千代川	2	4	1	2	3	6
天神川	0	0	8	8	8	
日野川	0	0	2	9	2	9

6 海岸調査の概要

区分	自 然 海 岸										
	海岸（汀線）に浜が発達している						海岸（汀線）に浜が発達していない		小 計		
	泥浜海岸		砂質（砂浜）海岸		岩石（磯浜）海岸		延長	%			
	延長	%	延長	%	延長	%			延長	%	
鳥 取	Km 0	0	4970	52.7 34.4	2475	26.2 17.1	1994	21.1 13.8	94.39	65.3	
島しょ	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
区分	半 自 然 海 岸										
	海岸（汀線）に浜が発達している						海岸（汀線）に浜が発達していない		小 計		
	泥浜海岸		砂質（砂浜）海岸		岩石（磯浜）海岸		延長	%			
	延長	%	延長	%	延長	%			延長	%	
鳥 取	Km 0	0	2027	50.5 14.0	114	2.8 0.8	1871	46.6 12.9	40.12	27.8	
島しょ	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
区分	人 工 海 岸								河 口 部		合 計
	埋立によってできた海岸		干拓によってできた海岸		左記以外の人工海岸		小 計				
	延長	%	延長	%	延長	%	延長	%	延長		
	鳥 取	735	97.4 5.1	0	0	020	26 0.1	755	5.2	248	17
島しょ	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0

7 干潟、藻場、サンゴ礁の概要

(1) 干潟

県内の海岸は外洋に面しているものが多い。また海域における潮差は最大73cm、平均潮差は20cm弱であって、きわめて微小である。このため干潟の発達は不良である。

(2) 藻場

鳥取県沿岸海域の藻場は一般に発達不良である。しかし、西部の大山山ろく沖合では岩礁がかなり分布しており、そのため藻場面積が相当大きい。

鳥取県全体の藻場面積は1,168haで、そのうち大山山ろく沖は868haで最も大きく。つぎに藻場の発達がややみられるのは東部の酒津海岸沖であり その面積は116haである。また網

代、田後沖から黒島沖にかけて、かなりの藻場が分布している。底質が花崗岩の藻場面積は96haである。また駒馳山沖や海士島の周囲に安山岩質の藻場が39ha、中部海岸の長尾鼻から橋津にかけても安山岩や玄武岩質安山岩の藻場が49ha、小計88ha分布している。

藻場のタイプはすべてカフモ場で、褐藻類が主体である。藻類は、

ア ホンタワフ科（アカモク、ヨレモク、ノコキノモク、シモモク、ヤツマタモク、フシシ
ンモク、イソモク、ウツフノオ）

イ アミシクサ科（アミシクサ、サナダグサ、ヤハズグサ、ウチワ）

ウ コンプ科（ワカメ、クロメ）

下草としては、次のもの等があげられる。

ア 緑藻（アオサ科、ルカ科）

イ 紅藻（アネクサ科、サンゴモ科、ムカヅノリ科、オコノリ科）

(3) サンゴ礁

鳥取県沖合では、オノチキサンゴが採取されたことがあるが、サンゴ礁地形を形成するようなものは存在しない。

8 海域環境の概要

個別的にみた概要

(1) プラクトンについて

一般的にいえば、瀬戸内海等における頻発する赤潮成立に関連あるプラクトン組成でないことを明記しておきたい。

(2) 底生生物について

実施要項に示されているシズクカイ、チョノハナカイ、ヨツハネスピオ、Capitellacapitata に関する事例は、少くとも認められない。現状では底生生物に関する限り特記すべきことがらは認められないものと判定する。

(3) 付着生物について

既存のデータは全くなく今後の課題という他ない。

(4) 大腸菌について

概要としてみれば、港湾化水域及び一級河川入水域の一部に異常な値のデータが見られるが、全体的にみると環境基準を十分に充足する実情であり、特に大腸菌汚染と認められる水域は検出されない。

9 海域生物の概要

動物及び海藻については、特に、質的にはほとんど変化がなく、海域生物の概要を示すものと判断されることから提出したものである。特に海藻については、調査の都度種類相を確認し、調査時における特記すべき変化を認めなかったため、そのまま記入した。

潮上帯	アフレタマキヒ
高潮帯	
岩礁表面	タマキビカイ、イワフジツボ、ヒザフカイ
岩礁間隙面	カメノア、イカイ
中潮帯	タマキビカイ、イシダミ、クホカイ、カノコカイ、カメノア、イガイ、ヒザフ カイ ウノアン、ベッコウカサカイ、ホサツガイ、キュウシュウクビキレガイ
低潮帯	カメノア、イカイ、レイシ、ウノアン、ヒザフカイ、ウメボンイソキンチ ク クボガイ、カノコカイ、ホサツガイ キュウシュウクビキレカイ
浸水帯	ムフサキウー、ハフソウー、クモヒトブ、イトマキヒトブ、ヒメヒトブ、ヒザ フカイ ケヤノムシ、イワムシ、ウメボンイソキンチ ク

第 2 章 自 然 公 園

第 1 節 自 然 公 園 の 保 護

1 自然公園の概況

自然公園は、優れた自然の風景地を保護するとともに、その適正な利用によりわれわれの保健休養及び教化に資することを目的として設けられたものであるが、近年、経済社会の進展に伴い日常生活圏に良好な自然が少なくなったこともあって、都市生活等における精神的緊張の解放を図るための場として、あるいは、野外レクリエーションの場としてその利用の欲求が高まってきた。

これらの欲求にこたえ、利用者が自然公園本来の目的に沿って快適な利用が図れるよう各種施設の整備を進めつつある。

一方、優れた自然は、後世の人間にとっても貴重な資産であるので、その自然環境を保全するため、規制の強化及び管理体制の充実に努めている。

県下の自然公園の指定状況及び各公園の概況は次のとおりである。

表18 鳥取県の自然公園

区分	公園名	指 定 年月日	全面積	県内 面積	特別保 護地区	特 別 地 域				普通 地域	関 係 市 町 村
						1種	2種	3種	特 別 地域 <small>計</small>		
国 立	大山隠岐 国立公園	S11 2 1 S50 9 13 拡大	31927	13531	1139	3540	2544	2677	8761	3631	大山、溝口、江府 岸本、関金、東伯 赤碓、名和、中山
	山陰海岸 国立公園	S38 7 15	8996	15241	1251	—	1312	75	1387	12	鳥取、福部、岩美
	小 計		40923	150551	12641	3540	3856	2762	10148	3643	
国 定	比婆道後帝 国定公園	S38 7 24	7808	1437	—	22	834	581	1437	—	日南
	氷ノ山後山那 岐山国定公園	S44 4 10	405072	72104	1961	6433	936	54349	70143	—	岩美、国府、八東、郡 家、若桜、智頭、用瀬
	小 計		483152	86474	1961	6653	17701	60159	84513	—	
県 立	奥日野 県立公園	S39 6 1	4278	4278	特別地域指定なし						日野、日南
	三朝東郷湖 県立公園	S29 4 1 S39 6 1 拡大	15461	15461	同 上						倉吉、三朝、東郷 羽合
	小 計		19739	19739							
計			1089772	434415	14602	42053	56261	87679	185993	3643	公園面積＝県土面 積の12.4%

(1) 国立公園

ア 大山隠岐国立公園（昭和11年2月1日指定 昭和38年4月10日追加指定）

中国山脈の最高峰伯耆大山（1711メートル）を中心とする山岳地帯に島根県の隠岐島、島根半島的美保ノ関、日御崎、出雲大社の三地点と、大田市に近い火山・三瓶山を合わせた海陸に及ぶ変化のある公園である。

大山はコートロイデ火山であるが、西方からみると富士型の美しい形なので、伯耆富士と呼ばれている。東側はこれと全く反対で、北壁と呼ばれるアルプス的な岩壁でそそり立っていて、女性的な面と男性的な二つの面を持っている。日本海に近くそびえるので、標高以上に高くみられ、裾野原野が美しい。山頂からはナイフリッジの縦走がつづきスノルがある。主峰の北には矢筈ヶ山、勝田ヶ山、甲ヶ山の火山群峰が続いている。

火山の中腹はフナの原始林におおわれていて、新緑紅葉がすばらしく、また、海岸部に多くみられているクロマツが、かなり標高の高いフナの成林がみられるような所で育成しているのが珍しい。山頂には高山植物群落があり キ フボクの群落がみられる。海に近いので島根半島、中海の展望がすばらしい。

中の原、豪円山の一帯は、関西第一のスキー場でノフトも多く、九川方面からの利用も多い。夏はキャンプが盛んである。大山は修験道の盛んであったところで、大山寺・大神山神社などの社寺に数多くの僧坊が歴史を物語っている。大山鏡ヶ成には国民休暇村（全国最初）があり 大山の南に続く蒜山は上 中 下蒜山の三峰とそれに続く高原地帯とともに クリエーションの中心となっている。

イ 山陰海岸国立公園（昭和38年7月15日指定）

鳥取県の鳥取砂丘から、京都府の網野町まで延長75キロの日本海海岸の公園である。鳥取砂丘、浦富海岸に続いて、但馬御火ノ浦、香住、玄武洞、城崎温泉、久美浜湾など優れた景勝地が続いている。

この辺の海岸は、地図でみると平凡のように見えるが、実際には小さいながらも湾入、岬、島々と変化が多く至るところに美しい海岸風景がみられる。地質の公園、岩石美の公園といわれる。地質が各種の噴出岩、第三紀層、深成岩など複雑で、それが美しい層をなしていたり、節理を示している。その上に地盤の隆起、陥没、断層などによって地形が複雑となっており、更に侵食をうけて断崖となり 洞門 洞窟 石柱となり 奇勝が作られている。

(2) 国定公園

ア 氷ノ山後山那岐山国定公園（昭和44年4月10日指定）

中国山地の東端、鳥取、兵庫、岡山の3県にまたがる脊梁山地一帯で中国山地第2の高峰氷ノ山（1,510メートル）を主峰とし、後山、那岐山など1,000～1,300メートル級の南北に連なる山岳と 音水、芦津などの溪谷、神鍋、鉢伏、黒岩などのスキーや野営に適した高

原を含んだ公園である。

鉢伏山から氷ノ山、後山、大ヶ仙に至る山りょう部は全体に丸味を帯びた準平原状の山容だが山腹は侵食により音水、赤西、芦津などの溪谷美や雨滝、霧カ滝などの特異なばく布群がみられる。

これらの山々の中腹又は山ろくには畑ヶ平、鉢伏、兎和野、黒岩などの高原がある。

公園一帯には、自然林が各所にみられ、ブナはこの公園の主要な山岳の山りょう部や溪谷に発達する植生で、標高700メートル以上で群落をなしている。特に氷ノ山山頂付近は、フナ、シオジ、スキ、キャフボクなどの群落がみられ、古生沼はヤチスゲ、アイソウなどの湿原植物でおおわれている。三川山、後山はジャクナゲがある。

なお、佐治村、三朝町の中国山地脊梁部に存するフナ、ミズナフ樹林地一帯を保護するため、当公園の一部として拡張指定するよう現在環境庁へ申出をしている。

イ 比婆道後帝釈国定公園（昭和38年7月24日指定）

中国山地のほぼ中央にある比婆、道後、船通の山々と、南にある帝釈峽を含んだ公園である。

標高は約1,200メートルで、山頂部はゆるやかな準平原をなしている。この一帯の森林は砂鉄製錬のために永年にわたって伐採されたので放牧地、草原となっていてところが多く、快い草原風景を呈しており、ツツジの名所もある。比婆山のイチイの大木林と、フナの原始林は貴重な植物景観となっている。

帝釈峽は山岳地帯の南約1.6キロの地点にある石灰岩の溪谷で、付近には石灰岩の作るカルスト地形がよく発達し、トリーネ（地鉢）、ウバーレ（複合地金帯）、ポリエ（石灰盆地）などが見られる天然橋の雄橋、白雲洞などがある。湖水の沿岸は、森林もよく野生猿がみられる。

(3) 県立公園

ア 三朝東郷湖県立公園（昭和29年4月1日指定 昭和39年6月1日追加指定）

この公園は、三朝町の一部と東郷町の全部、羽合町の大部分、倉吉市の一部を含めた15,461ヘクタールで東伯郡の東端に位置し（因幡伯耆の国境）南は岡山県美作に中国山地をへだてて接し、西は小鴨川に北は日本海にのぞんだ県のやや中央部に位置している。この区域は三朝・東郷・羽合の温泉地があり、景勝地としては、小鹿溪・東郷池・史跡名勝としては三徳山・打吹山等がある。東郷湖畔一帯は、20世紀梨の果樹園となっている。

イ 奥日野県立公園（昭和39年6月1日指定）

この公園は、日野郡日野町、日南町の日野川水係を基幹として日野町の古峠山、塔ノ峰、鶉ノ池、黒坂庵山、日野川溪流、日南町の石霞溪、菅沢タム、花見山などを含む4,278ヘクタールの景勝地である。

2 自然公園の管理

国立公園及び国定公園については、保護の適正を図るため、特別保護地区及び特別地域を指定し、これらの地内において風致景観を損うおそれのある一定の行為は、環境庁長官又は知事の許可を受けなければならないことになっている。

県立自然公園については、県立自然公園条例に基づいて管理運営されるが、まだ特別地域の指定がなされていないので早急に特別地域を指定し保護管理の徹底を期することとしている。

国立公園の管理は原則として、国が行うこととされているが、自然公園法の改正により許認可事務が大幅に県知事に権限委譲され、県の管理事務量が増大している。

国立公園の管理機構としては、昭和48年7月に西伯郡大山町大山に環境庁大山隠岐国立公園管理事務所が、昭和51年10月に岩美郡岩美町牧谷に環境庁山陰海岸国立公園浦富管理員事務所が設置され、それぞれ地域内の管理業務を担当している。

昭和51年度以降の自然公園内の行為に係る許認可処理の状況は表19のとおりである。

行為の種類別では、工作物の新增築等が許可の大半を占めている。

表19 国立、国定公園における年度別許認可処理数調べ

公園名	許認可 権限	公園事業関係					工作物等関係					計				
		51	52	53	54	55	51	52	53	54	55	51	52	53	54	55
大山隠岐 国立公園	長官権限	15	17	25	18	17	12	9	6	6	13	27	26	31	24	30
	知事権限	—	—	—	—	—	31	32	32	44	22	31	32	32	44	22
	小計	15	17	25	18	17	43	41	38	50	35	58	58	63	68	52
山陰海岸 国立公園	長官権限	11	4	9	7	3	4	10	3	4	6	15	14	12	11	9
	知事権限	—	—	—	—	—	90	126	108	97	64	90	126	108	97	64
	小計	11	4	9	7	3	94	136	111	101	70	105	140	120	108	73
氷ノ山後山那 岐山国定公園	知事権限	0	0	0	0	0	4	4	2	13	7	4	4	2	13	7
比婆道後帝 国定公園	知事権限	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	2	0	2	1
計		26	21	34	25	20	141	183	151	166	113	140	204	185	191	133

3 自然公園の環境美化

自然公園内の主要利用地においては、利用者のもたらす空缶等廃棄物による人為的汚染が各所で問題となっているが、これらの地域における環境汚染については、ほとんどの地域が日常生活圏から遠隔地であるという地理的条件の悪さから、廃棄物の効率的な収集処理等は極めて困難と

なっており、この対策については地元市町村のみでは対応が難しいところであり、県においては、国の補助金と合わせて、民間活動団体の美化清掃活動に対して昭和55年度は表20のとおり助成を行い、その育成を図るとともに環境美化を推進している。

また、大山地域においては昭和52年から、鳥取砂丘地域においては昭和55年から、自然保護団体、地域住民、関係行政機関等の呼びかけで公園内のゴミ一掃をめざしたクリーン運動が春・秋の各一回実施され、多くの参加者により年々ゴミの量は減りつつあるが、最終的な環境美化を成しとげるためには利用者のモラル向上が望まれている。昭和55年度のクリーン運動の概況は表21のとおりである。

表20 昭和55年度美化清掃活動事業費実績

公園名	地区名	事業費
大山隠岐国立公園	大山地区	4,800 千円
	鏡ヶ成・榊水地区	2,400
山陰海岸国立公園	鳥取砂丘地区	4,800
	浦富海岸地区	2,400

表21 昭和55年度クリーン運動概況

地域名	実施月日	参加者
大山	4月27日	1,900人
	10月26日	1,000
鳥取砂丘	4月20日	1,200
	10月12日	800

4 自然保護用地の買上げ

国立国定公園の特別保護地区及び第1種特別地域内の民有地で、緊急にその土地を公有化し、限り自然の保護の徹底を期せられない地域について、交付公債により買上げ自然の保護の徹底を期することとしている。

現在までの公有化状況は表22のとおりである。

なお、氷ノ山、後山、那岐山国定公園、智頭町芦津地内の第3種特別地域の土地について、木のみを買収を行ない土地は地上権を設定する本県独自の 방법으로、表23のとおり自然保護用地取得に当たっている。

表22 自然保護用地の買上状況

公 園 名	場 所	面 積
大 山 隠 岐 国 立 公 園	江 府 町 木 谷	1 0 2 5 4 <i>ha</i>
	” 鏡ヶ成	7 8. 1 5
	中 山 町 遠 茶 畑	2 5 6 4
	大 山 町 大 野	6 9. 7 9
	” 向 原	7. 4 7
	計	2 8 3 5 9
氷ノ山後山那岐山国定公園	智 頭 町 芦 津	4 7. 7 7
合 計		3 3 1 8 6

表23 立木購入状況

公 園 名	場 所	地上権設定面積	地上権設定期間
氷ノ山後山那岐山 国 定 公 園	智 頭 町 芦 津 地 内	3 3 9 3 7 1 <i>ha</i>	5 0 年

第2節 自然公園の利用

1 自然公園の施設整備

所得や余暇の増大、都市化の進展等の要因により、国民の自然環境でのレクリエーション活動はますます増大しており、自然公園の利用者は近年増加の傾向にある。

本県では毎年計画的に自然公園の施設整備をすすめており 昭和55年度は表24のとおり実施した。

表24 昭和55年度自然公園等施設の整備状況

(1) 国立 国定公園

公 園 名	事 業 名	施設箇所	事 業 内 容
山 陰 海 岸 国 立 公 園	山陰海岸自然科学館 整備	岩 美 町	鉄筋コンクリート平屋建 展 示 1 式 3 9 4 m ²
氷ノ山・後山・ 那岐山国定公園	氷ノ山野営場整備	若 桜 町	管理車道舗装 W = 3.0 m L = 7 0 5 m

(2) 県立公園

公園名	事業名	施設箇所	事業内容
三朝東郷湖 県立公園	大平山園地整備	倉吉市	休憩所 1棟 22m ²
奥日野県立公園	鵜ノ池車道整備	日野町	車道舗装 W=3.5m L=450m

(3) 中国自然歩道

区分	路線名	箇所	事業内容
公園内	岩戸～浜坂線	福部村	標識区間 6.3Km
		鳥取市	公衆便所 1棟 16m ²
公園外	浜坂～三朝線	鳥取市	新設 W=1.0m L=6.0Km
		鹿野町	標識区間 4.55Km
		三朝町	休憩所 2棟 26m ²
			公衆便所 1棟 12m ²

2 自然公園の利用者

県下の自然公園の利用者は表25のとおりで、昭和47年から数年間は650万人前後で横ばいの傾向にあったが、昭和53年は710万人に増加したのに続き、54年は735万人と46年以降最高の数字を示しており、前年に比べて約25万人の利用者が増加している

表25 自然公園の利用状況

公園名	年度								
	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年	
国立公園	大 山 隠 岐	2,247,000	2,240,100	2,170,000	2,150,000	2,186,400	2,195,300	2,476,000	2,498,200
	山 陰 海 岸	2,286,000	2,228,700	2,438,000	2,456,000	2,421,900	2,569,500	2,464,900	2,635,000
	小 計	4,533,000	4,468,800	4,608,000	4,606,000	4,608,300	4,764,800	4,940,900	5,133,200
国定公園	氷 山 後 山 掛 岐	161,000	144,789	140,000	135,100	137,800	138,100	140,000	170,800
	比 婆 道 後 帝 釈	28,000	30,449	30,000	28,400	29,000	29,100	29,500	36,000
	小 計	189,000	175,238	170,000	168,500	166,800	167,200	169,500	206,800
県立公園	三朝東郷湖 県立公園	1,586,000	1,708,400	1,614,000	1,557,800	1,634,500	1,852,100	1,859,700	1,847,500
	奥日野県立公園	130,000	134,134	130,000	125,200	127,700	128,000	130,000	158,600
	小 計	1,716,000	1,842,534	1,744,000	1,683,000	1,762,200	1,980,100	1,989,700	2,006,100
合 計	6,438,000	6,486,572	6,522,000	6,452,500	6,537,300	6,912,100	7,100,100	7,346,100	